

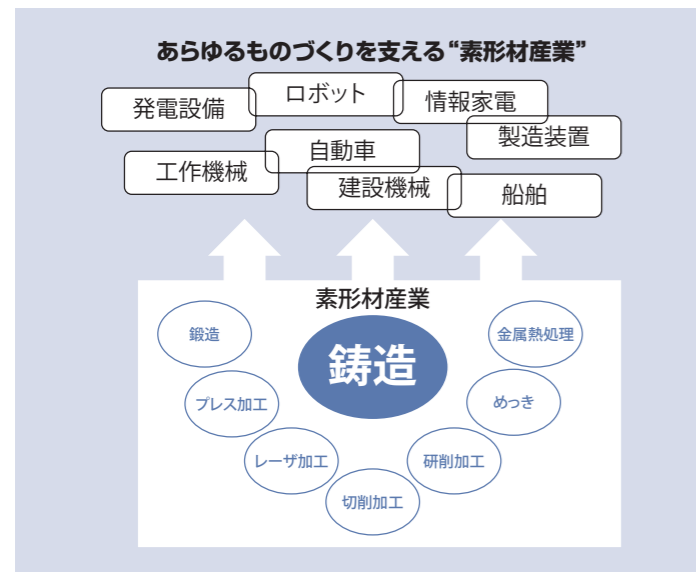
ものづくりの原点がある① 目指すのは “強い会社”。

代表取締役社長 若野歌子

ものづくりを支える鑄造技術

「鑄造」は素形材産業のひとつです。素形材とは、素材(金属)に熱や力を加え形を整えた部品や部材のこと。この素形材を組み立てたりさらに加工したり、電気回路などを搭載したりすることで、世の中の工業製品は作られます。

素形材を生み出す加工方法には鑄造や鍛造、プレス加工など様々ありますが、鑄造はその代表的なもの。生産量も最も多い、とても重要な加工方法です。



鑄造は、熱を加えて金属を溶かし、砂や金属で作った型の中に注ぎ込んで形にする加工法。鑄造によって作られる製品は実に幅広く、指先に乗るような小さな製品から、大きさ数メートル、重さ何トンもの大型製品まで様々。自動車や船舶、建設機械や産業機械、ロボットや家電、発電設備など、ありとあらゆる工業製品に用いられています。

鑄造は、ものづくりの原点となる技術。世の中がどのように変わっていかうとも、鑄造の技術なくして工業製品は成り立たない——そんな技術なのです。



若野鑄造所の得意分野

若野鑄造所の発祥は今から180年ほど前の天保年間。高岡銅器の鑄物師としてスタートし、1940年代から航空機の部品製造など工業分野に事業を転換しました。



様々な鑄造会社がある中で、若野鑄造所が得意としている分野は「大きく」「複雑」な製品づくり。小さなものでも約100kg、大きなものなら4トンもあるようなもので、主に産業機械のフレームや大型ポンプの躯体、船舶の駆動部などの部品として使われる複雑な形状の製品です。

これら巨大で複雑な形状の部品は、金属が冷え固まって

いくとときに収縮や歪みが発生しやすいため、高度な鑄込み技術が必要とされます。寸法精度はもとより強度や素材の組成などに厳密な品質管理を行わねばなりません。

若野鑄造所では、これまでの経験で培ってきた鑄込みの技に、コンピュータによるシミュレーション技術や金属組成解析技術などの先進テクノロジーを加え、難易度の高い製品づくりに取り組んでいます。

「モノ」のプロとして生きる

ITの進化で、ものづくりの現場は大きく変わろうとしています。高度なシミュレーション技術と巨大なデータベースによって、極端に言えば「コンピュータの中だけで」ものづくりが完了してしまう（もちろんそれは錯覚ですが）そんな世界が来ています。しかし実際のモノは、往々にして予測を裏切り、予期せぬ動きをします。コンピュータでは捉えきれない超複雑な世界、それがモノの世界です。「溶けた鉄」という極めて予測しづらいモノに最前線で向き合ってきた私たちには、ものづくりに

関する分厚い経験とノウハウが蓄積されています。

IT化が進むにつれお客様がモノ（鑄物）に触れる機会も少なくなりつつあり、それと反比例するように「こんなものを作りたいのだが、設計はこれでいいか?」「もっと良い方法があれば提案してほしい」という依頼は年々増えてきています。ITの時代だからこそ、モノと向き合うプロの重要性がますます高まっているのだと思います。

「強い会社」を目指す

若野鑄造所はこれからも、ロボットなどの新しい技術を導入しながらも培ってきた技術を伝承し、最前線でモノと向き合う会社であり続けたいと思っています。難易度の高い分野のものづくりを着実にこなせる確かな技術を持つ会社。チームワークと団結力に優れ、社員一人一人の顔が見える強い会社——そんな会社を目指します。

ものづくりに興味を持つ人、鑄造のプロとして成長していきたい人との出会いを期待しています。